

平成30年度 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

日 時：平成31年3月22日（金）午後2時から3時30分まで

場 所：旭川市職員会館3階 第6号室

出席者：委員5名

堀川陽子委員，沖全委員，高柳修委員，長谷川宏委員，大矢二郎委員
各町7名

鷹栖町総務企画課	山原参事
東神楽町まちづくり推進課	矢本課長補佐
当麻町まちづくり推進課	中山課長
比布町総務企画課まちづくり推進室	千葉主任
愛別町総務企画課	山中課長
上川町企画総務課	小路課長
美瑛町政策調整課	田野主任
上川総合振興局	
地域政策部地域政策課	榎波主査

事務局（旭川市）4名

総合政策部政策調整課：佐藤次長，上代主幹，森田補佐，水野

傍聴者：なし

会議資料：次第

- 資料1 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿
- 資料2 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱
- 資料3 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議運営（案）
- 資料4 上川中部定住自立圏構想の概要
- 資料5 上川中部定住自立圏共生ビジョン（案）
- 資料6 定住自立圏構想推進要綱
- 資料7 定住自立圏構想推進のための地方財政措置について

【会議内容】

1 開会

2 委員紹介（資料1）

（各委員，各町からの出席者を事務局が紹介。）

3 懇談会

(1) 座長，副座長選出（資料2）

ア 座長の選出

（事務局の佐藤次長が仮議長となり，座長の選出を行った。）

（事務局一任となり，事務局は大矢委員を座長に推薦し，了承された。）

イ 副座長の選出

（座長は，副座長に沖委員を選任し，了承された。）

(2) 会議ルールについて（資料3）

（事務局から説明。提案のとおり了承された。）

(3) 上川中部定住自立圏構想の概要と懇談会の目的について（資料4）

（事務局から説明）

(4) 議事

ア 定住自立圏形成協定及び共生ビジョンの変更について（資料5）

〈定住自立圏形成協定の変更について〉

（事務局から説明）

○上川中部定住自立圏形成協定の変更について，次年度に向けては，新規の追加及び既存の内容を変更する事業がなかったため，形成協定の一部を変更する協定の締結はなかった。
連携事業数については，今年度と同様，29事業。

〈共生ビジョンの変更について〉

（事務局から説明）

○次年度に向けて，形成協定の一部を変更する協定の締結はなかったため，共生ビジョンについても項目の追加・変更はなし。上川中部定住自立圏共生ビジョン案（資料5）には，連携して取り組む具体的な事項について記載しており，個別事業について，加除修正や事業費等の変更を実施している。

イ 今後の新たな広域連携へ向けた意見交換について

（座長）

○今回傍聴者はいないが，折角の意見交換の場なので，予め報道機関に告知するなどして，地域の取り組みを幅広く発信する必要があるのではないか。

○今回は、定住自立圏形成協定の変更がなく、成果指標や事業費の修正にとどまるということだが、成果指標について、特に効果があった連携事業はあったか。

(事務局)

○「子ども緊急さぼねっと」や「成年後見制」に係る指標については、直近の実績値が平成29年度のものであるが、目標値を超えている状況であり、子育て支援など今日的な課題に対応することができているのではないかと考える。また、成年後見については、高齢者や障がい者の生活を支援するものであり、高齢化率の上昇などを踏まえると実績を上げていると考える。新規創業についても増加傾向にあると判断できる。

(座長)

○昨年9月に胆振東部地震が発生し、旭川も震度4を観測した。また、地震発生後、長時間の停電（ブラックアウト）もおきた。防災に係る連携については、上川中部の枠を超える、より広域な連携になるのかもしれないが、この地域は、洪水や火山の噴火にも注意が必要である。旭川は、地震の発生率が低い地域とされているが、万が一に備えた連携の準備は必要である。

○成果指標について、子育て支援体制の充実や成年後見制度は世相を反映しているが、成年後見の支援のように、一自治体だけでは対応することが難しい場合もある。

(委員)

○私の町では、観光客のマナーが問題になっている。観光客が農地に無断で立ち入る場合もあり、農家にとっては迷惑になることもあるが、観光客を増やしたい町の方針と折り合いをつけていかなければならないと認識している。また、観光地といっても通過型で、宿泊者が増えていないことも課題と認識している。

(座長)

○国道沿いに、人気の物産店があると思うが、状況はどうか。

(委員)

○確かに客はいるが、もう少し農産物を販売できるといい。中山峠の「あげいも」のような名物があるといいかもしれない。

(座長)

○景観など観光資源の活用と、マナーの欠如といった負の側面は一体として考えなくてはならない問題である。

(委員)

○日本人は比較的マナーがいいが、外国人観光客の中には、農地に入るなど問題視されてしまうケースがあるほか、一部で交通渋滞の問題も発生している。

(座長)

○「青い池」の周辺も混雑している。

(委員)

○迂回路を整備するなど改善策を施しているが、混雑は解消していない。

(座長)

○現在「道の駅」となった施設は、1993年に私が設計に関与した建物であるが、近郊に新たな観光資源ができたことは喜ばしい。

(委員)

○「青い池」は期待に反する場合もあるようだ。自然相手であるので、たまにしか来訪しない客の場合、写真のように青く見えないときもある。

(座長)

○「パッチワークの丘」なども魅力的であるが、一番混雑する時期はいつか。

(委員)

○富良野のラベンダーが最盛期の7月から9月前半くらいまでか。

(座長)

○この地域の冬の魅力についてどのように考えるか。

(委員)

○やはり雪が降ること。雪原で花嫁衣装を着て撮影しているカップルを見かけたことがある。人気の食堂などは冬でも満席である。しかし、18時を過ぎると街中を誰も歩いていない。

(座長)

○地震のとき、停電で街灯等の光がなく、星がとてもきれいだったのが印象的であった。

(委員)

○美瑛町の北瑛地区に展望台がある。街中にも町民向けの展望台があり、美しい星空が眺められる。

(座長)

○地域資源を磨き上げてPRすれば、より多くの方に来てもらうことができるようになると思う。この地域のポテンシャルは高い。

(委員)

○事務局に質問であるが、「子ども緊急さぽねっと」の利用者数は、近隣町も含まれているのか。また、障害者の相談業務については、東神楽町との連携のみが記載されているが他

の近隣町とは連携していないのか。

(事務局)

- 「子ども緊急さぼねっと」は、近隣町の利用者も包含されている。
- 定住自立圏の事業については、あくまで中心市である旭川と近隣町の1対1での連携であり、障害者の相談については、定住自立圏としての位置づけは、今のところ東神楽町のみという状況である。

(委員)

- 直接、関係のない話かもしれないが、今後、必ず支障をきたす問題として、人口減少がある。行政サービスも維持できなくなるかもしれない。定住自立圏としての考え方は、どのように変化していくのか。

(座長)

- 一般に人口は減少傾向であるが、東川町は町立の日本語学校を設置するなどして減少に対応している。また、文化行政面では近代家具を中心とする「織田コレクション」を町有化するなど、魅力的な取組を推進している。町長の考え方が独特なのかもしれない。

(委員)

- 東川町は、外部の人にとっても魅力的なまちなのかもしれない。

(座長)

- 東川町はデザイナーなどソフト産業に従事している人も増えていると聞いている。テレワークなど新たな働き方で、東川町の田園の中でも仕事ができる時代になった。それであれば、環境のよいところで生活したいと考える人もいると思う。
- 東川町は、まちの魅力を上手にアピールしている。

(事務局)

- 東川町では、出店希望者に資金補助をしたり、ふるさと納税を活用して関係人口を増加させる取組を実施したりしていると聞いている。
- 定住自立圏の今後のあり方については、各自治体がどのように連携して、地域の特色を生かすのかが課題である。明確な答えはないが、各自治体が困っていることや連携につながることにしても協議しながら進めていきたい。
- 先ほどの障害者相談に係る東神楽町との連携は、旭川市障害者福祉センター「おびった」の中にある「あそと」で実施しているが、わざわざ施設を整備せず、連携している状況である。すべての事業について、必ず8町と連携することは考えていないが、他町とも連携できるものについてはできるように柔軟に対応していきたい。

(座長)

- 東神楽町の人口の状況はどうか。

(委員)

○まだ、減ってはいないと思うが、若者が戻ってこないようで、空き家をよく見かけるようになった。

(座長)

○空き家の増加は今後の大きな課題であり、人口減少が進行すると公共施設の稼働率も減少する。旭川市でも公共施設を今後、統廃合する方向性がある。建築物には耐用年数があるので見極める必要がある。

○高齢化の進展で、除雪車のオペレータが不足するなど、除雪対策も問題になるが、各町はどのような状況か。

(委員)

○郊外で生活しているため、中心市街地の状況はわからないが、メインストリートには融雪溝が整備されている。また、空き家の除雪については、商工会等に対応しているようである。郊外の方は、むしろ体制がしっかりしている。

○除雪のオペレーターについては、農家の重機なども活用して対応している。

(座長)

○当麻町の役場が新築されたと聞いているが。

(委員)

○町産の木材を活用して建設された。町内で新築したい人の参考になっているようである。また、視察も多いと聞いている。

(座長)

○東川町では、「せんとぴゅあ」という図書館、展示機能を主とする施設を整備している。建築的には、周辺自治体がいい取組を行っている。

(事務局)

○本市では、新年度から除雪のオペレータの確保に向けて、資格の取得に対する補助を実施することについて検討している。

(委員)

○除雪のオペレータは免許の取得とあわせて実務経験が必要である。公の支援は必要かもしれない。

(事務局)

○除雪は様々な要因があるため、難しい問題である。

(座長)

○除雪については、定住自立圏の取組にはなっていないが、自治体が連携できることはない

か。

(委員)

○業者としては、既に他の自治体の業務を請け負っている場合もある。

(座長)

○他に、自治体が連携して効果的な取組はないか。

(事務局)

○現在の定住自立圏は、おおよその取組が網羅されている状況である。

(座長)

○居住している人の利便性等を向上させて地域にとどまってもらうことも重要であるが、観光客など流入してくる人を増加させていくことも重要である。

(委員)

○観光客は増加しているものの通過してしまう。

(座長)

○ホテルの宿泊料金がとても高額である。

(委員)

○旭川は特に高騰している。以前は、1泊素泊まりで4,000円程度であったが、現在は、6,000円程度で、閑散期も安価にならない傾向にあると感じている。

(座長)

○旭川市は今もホテルが新規に整備されているが、値段が低下しないのは、ニーズが多いということだろう。

○現在、旭川市では、旭川大学の公立化について議論されている。高等教育機関の整備は、若年層が地域にとどまる上で重要である。

(委員)

○地元の高校も生徒が減少している。先日、長野県の白馬村へ視察にいったが、県立高校に観光学科を設置するとともに、寮と塾を村が整備している。道立高校については、融通が利くか不明であるが、特色ある学校づくりを推進してもらいたい。

(座長)

○音威子府村も工芸科を設置している。以前、旭川市には東海大学があって、地元の企業への人材供給としての役割も担っていたが、5年前に閉校してしまった。市では、ものづくり系学部も含めた公立大学の設置を検討しているが、不透明な状況である。円滑に進めば、若者の地元定着に結びつく。

- 北海道知事選が実施されるが、候補者のビジョンの中で、JRやIR、原発の問題が争点となっている。JRについて、利用者を増やす方法はないか。例えば、ヨーロッパでは、列車に自転車を持ち込んで運搬することは一般的であるが、そういった工夫もほしい。
- 現在、SNSが普及し、市のHPなどを介さず直接、情報を発信することも可能である。一方で、自治体のホームページの充実も重要であるが、旭川市の外国語のHPには、外国人の関心が高くないような情報まで、長文で掲載されていたりするので改善の余地がある。

(5) その他

- 特になし

5 閉会

以 上